

みかんの はな便り

【第17号】

湯河原〈ゆうゆうの里〉

〒259-0395

神奈川県足柄下郡湯河原町吉浜1855

TEL.0465-60-1000 FAX.0465-63-3864

フリーダイヤル 0120-022-465

http://www.yuyunosato.or.jp

【第17号】発行/2018年6月

元気な時でも、支援が必要になることってあるんです

～元気で安心して暮らすために～

ゆうゆうの里には終身にわたる安心の介護体制はもちろん、お元気なご入居者のいざという時にもお守りする支援サービスがあります。どのようなサービスでしょうか。

■いざという時の支援とは

どんなに元気な方でも、一時的に体調を崩されたり、怪我をされたり、場合によっては入院する事もあります。ゆうゆうの里では、このようなとき、大事に至ることがないように迅速に手を打ち、早く快復できるように必要な援助や生活支援サービスを提供しています。費用は入居金に含まれていますので、都度払いの必要はありません。入居されてから最後まで切れ目のない安心のある生活を送ることができます。

■「本当に助かりました!」

実際に支援を利用された方々に伺ってみました。

●N様（H28年に74歳で入居）
立ちくらみがして倒れてしまい、

右手首を骨折。すぐに診療所看護師が病院を手配してくれて、職員に付き添ってもらいました。ギブスをつけていた2か月間は食事を配膳して頂いて、本当に助かったわ。

●Y様（H27年に65歳で入居）

銀行で急に胸が苦しくなりました。職員が迎えに来てくれて、診療所にそのまま入院。入院準備も職員の方がすべてしてくれた。「どんなことでもお話をしてくださいます。」と言って下さりとても嬉しかった。気がかりだった事を相談したら、すぐに対応してくれて本当に助かったの。ゆうゆうの里は家族みたい。

●T様（H18年に65歳で入居）

夜中に体調が悪くなった時は、職員がすぐに駆けつけてくれて診療所まで車いすで連れて行ってくれた。ペースメーカーの手術を受ける時には、入院や手術の説明も一緒に聞いてくれた。週2回もお見舞いに来てくれて、頼んだも

■安心して生活をして頂く為に

生活サービス課 石井職員



「ご入居者皆様にも元気で人生を楽しんで頂きたいと願っています。診療中の方には、歩き方やふらつきなど体調にお変わりがないか普段から気にかけています。また、診療所と連携し、入居者の体調を把握し、留意すべきことを職員間で共有しています。緊急時のコールには、リーダーとして、職員がいかに迅速に現場に向かい、いかに適切な判断をできるか…ここに最大の努力を払っています。」

入居者インタビュー

『旅が生き甲斐。妻とみたオーロラは最高の思い出です。』

轟 勉 様（82歳）



〈「ありがとう」は母の教え〉

父は海軍軍人で私が小学二年生の時に戦死しました。敗戦で国債も価値がなくなり、畑も小作地の開放で安く手放さざるをえなくなりました。母は、兄、姉、私、弟と四人の子供を苦勞して育ててくれました。

小さい頃から、「人に会ったらとにかく挨拶しなさい。」

「何かしてもらったら『ありがとう』と言いなさい。」「出されたものは好き嫌い言わず残さず食べなさい。」というところは厳しく言われていました。それで『ありがとう』と言うのが自然と身に着いたのでしょうか。会社でも頼んだことをやってもらうと下の者にも『ありがとう』と言っていました。また、年上の人には敬語で話す習慣もついていました。敬語や丁寧語で話すと、初めてのの人にも悪い

印象を与えず受け入れてもらうことができます。

〈湯河原に決めたわけ〉

妻が急逝してから、三年半、自分で食事を作っていました。もう限界でした。それと、いざれ介護なり、看護が必要になった時、娘達に迷惑をかけたくない。自分のために介護休職や介護退職をさせたくないと思い、施設入居を考えました。

シニアクラブで老人ホームの見学会があったので参加しました。それから本を読んだり、セミナーに参加したりして情報を集めました。いろいろ見学しましたが、一長一短100%満足

のいく施設はありません。湯河原は、海が見え、温泉があり、東京へのアクセスが良い。財団の財務諸表が欲しいと言ったら、すぐに施設長がコピーして持って来てくれて、経営面も

大丈夫だろうと思いましたが。そして、一番の決め手は、事務所も生活サービス課もオープンになっていて職員の顔がみえることです。食堂にも、職員の顔写真が貼ってあり、親近感を覚えました。

〈今でも、好きな旅行を楽しむ〉

入居しても、今までと変わらない自由な生活をしています。

若い頃から旅行が好きで、退職してからは主に海外旅行を楽しんでいきます。



仮装を楽しむベニスのカーニバル

土地に土地より民族も違えば風習、生活、宗教も異なります。それを自分の目で見たいのです。

行く前には、図書館で本を借りて読んだり、大使館から資料を送ってもらったりしてなるべく情報を集めてから行くことより楽しむことができます。

一人であちこち出かけることばかりだったので、妻が行きたいと言う旅行は必ず二人で行きました。今までで一番の思い出は、妻の希望で行った、オーロラを見た時でしょうか。まるでカーテンの裾が風でひらひらと揺れているように動くのが見事だなあと思いました。とても綺麗でしたよ。



夫婦でオーロラに感激

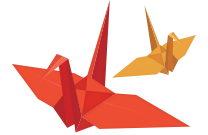
昨春秋には、西洋文明の始まりであるギリシャをゆつくり見て来ました。来月は、フィヨルドを見に北欧に行く予定です。水であれだけ削られるなんて自然の力は凄いですね。それを自分の目で見たいんです。



楽しそうにフィヨルドの話をする轟様

今、連鶴に

夢中！



ゆうゆうの里で連鶴を作る教室が開催され、連鶴作りに夢中になったご入居者が、サークルを立ち上げようとしています。連鶴の魅力について探ってみました。

●連鶴とは

●どんなもの？●

連鶴とは一枚の紙から作られた二羽以上の連続した折鶴のこと。一枚の紙に切り込みを入れて折っていきます。鶴が折れば、一枚の紙と鉄で誰でも連鶴が作れます。普通折り紙は机に置いて折りますが、連鶴は接続面が切れないように空中で折っていきます。基本の四十九種類の折り方の他に、くちばしで繋げたり、羽で繋げたり、背中で繋げたり…と、アイデア次第で色々な連鶴が設計できます。



連鶴の繋げ方は色々

●連鶴作りの面白さ●

ゆうゆうの里で三回折り紙教室が開催されました。第一回目の連鶴作りが大好評だった為、二回目以降は全て連鶴教室となるほどでした。

実際に連鶴作りに参加したご入居者は、「どうしてこんな風になるのか、というのを考えるのがすごく面白い。製図を考えるのが面白い。」「羽で繋げた口で繋げたり、切り方で変わるの面白い。」と。口々に一枚の紙から完成させる面白さを感じています。奥深いのに「落ちこぼれることがないのいい。折ることも楽しいが、皆でやるのが楽しい。」「皆と一緒に折ることが楽しい。作品を作っ

いる工程が楽しい。」「できたらゆうゆう祭に皆で何かを作って出展したい。」と親しみやすさもあるようです。



先生の話聞きながら熱心に連鶴作り

●連鶴サークルを

立ち上げたいな●

連鶴作りの楽しさをもっと続けたいと、まずは有志の皆さんが皆で楽しめる会を立ち上げることとなりました。偶数月の第一四金曜日に連鶴の会を開き、一回五百円で誰でも自由に参加できる会としてスタートします。大勢集まると嬉しいですね。見学も歓迎です。

●「夢は『真鶴≡連鶴』と言われるようにしたい。」●

講師の先生は、真鶴町の連鶴の会の顧問 塚田 信光氏。元は建築家で、町田の建築デザイン学校の学科長も務められた方です。「頭の中で設計図を描いて形にしていくのが楽しい。昨年障子紙一枚から一三六八羽の連鶴を作りました。ギネス記録は九四五羽なので、申請していれば記録更新になりました。でも、記録よりも、もっと多くの人に連鶴作りの楽しさを広めたい。今年十一月の二五〇〇羽の連鶴完成を目指して挑戦中。



1368羽の連鶴の大作

夢は『真鶴≡連鶴』と言われるようにしたい。

連鶴で仲間作りも繋がって、楽しみが広がっていくようです。

(高橋記)

夏のランチ付個別見学キャンペーン

期間 7月1日(日)～8月31日(金)

予約制です。ご都合の良い日をご相談ください。
一日3組限定でゆっくり見学・相談ができます。

- 集合場所 湯河原〈ゆうゆうの里〉 管理事務所
- 集合時間 午前11時
- 参加費用 無料（ランチ付）
- 定員 一日3組限定

お申込みは下記フリーダイヤルまで
（希望日の2日前までにご予約ください）



日替わり定食例

バス見学会のご案内

- 開催日 平成30年9月4日(火)
- 集合場所 小田原駅 新幹線 改札口前
- 定員 25名（予約制）
- 参加費 お一人様1,000円
（昼食・税込）



体験入居

お一人おひとりに合わせてプランを
お作り致します。

1名様 1泊2日(夕食・朝食付き)
3000円
ご予約は下記フリーダイヤルまで。

フリーダイヤル 0120-022-465

湯河原〈ゆうゆうの里〉
事務管理課 募集担当

湯河原ごぼれ話

町立湯河原美術館

湯河原は古くから多くの文化人に愛され、「東の大観・西の栖鳳」と称された日本画家・竹内栖鳳や、洋画家の安井曾太郎が晩年この地に居を構え制作活動を行っていました。

町立湯河原美術館は老舗旅館を改装し、平成10年に開館しました。常設館には、竹内栖鳳を中心に、安井曾太郎、三宅克己、伊東深水等、湯河原にゆかりの作品を展示しています。

また、現代日本画家・平松礼二の作品を展示する「平松礼二館」を開館し、新たに制作のためのアトリエも館内に設け公開しています。

今年ミュージアムカフェが新たにオープンし、湯河原十二庵の豆乳スープセットやたっぷり野菜サンド、秘伝豆の濃厚ソイラテなどが楽しめます。美術鑑賞の後、寄ってみては、いかがでしょうか。



ミュージアムカフェにはテラス席もあります